

ジェネリック医薬品の使用促進に関する プレスリリース

令和 2 年 6 月 19 日

報道関係者 各位

(照会先)

全国健康保険協会 東京支部

企画総務グループ 宮下、一柳、吉田

電話：03-6853-6530

全国健康保険協会東京支部加入者のジェネリック医薬品使用割合は 77.6%

～国が掲げた目標 80% (令和 2 年 9 月) 達成のカギは東京支部～

平成 29 年 6 月の閣議決定において、令和 2 年 9 月までにジェネリック医薬品使用割合 80%を達成させることが目標として定められています。

全国健康保険協会（協会けんぽ）東京支部加入者のジェネリック医薬品の使用割合は、令和 2 年 1 月診療分において 77.6%と、協会けんぽの全国平均 78.6%を下回っております [図 1,図 2 参照]。また、協会けんぽ全体で使用割合 80%に未到達であることから、更なる取組みの強化が必要な状況であり、特に約 550 万人（協会けんぽ全体の約 13.6%）が加入する東京支部加入者の使用割合向上が目標達成のカギとなります。

東京支部のジェネリック医薬品使用状況及び課題

東京支部加入者のレセプトデータの分析から、使用割合が低迷している要因は次の 4 点が考えられます。

1. 20 歳未満及び 40 歳以上の年齢層で使用割合が協会けんぽ全国平均より低い

東京支部加入者のジェネリック医薬品の使用状況を年齢層別で見ますと、20 歳未満及び 40 歳以上の年齢層で協会けんぽ全国平均を下回っています。特に、10-14 歳では▲3.4 ポイントと差が最も大きくなっています。また、薬剤数量における使用割合の 5 割以上を占める 50 歳以上の年齢層で、協会けんぽ全国平均より▲1.0~2.4 ポイントの差となっており、東京支部の使用状況に大きな影響を与えています [図 3 参照]。

2. 薬剤数量の多い薬効で使用割合が協会けんぽ全国平均より低い

次に薬効分類別で見ますと、循環器官用薬、消化器官用薬など、薬剤数量に占める構成割合の大きい薬効が協会けんぽ全国平均を下回っています。また、中枢神経系用薬は協会けん

ば全国平均を上回っていますが、使用割合自体が低く、東京支部の使用状況に大きな影響を与えています。[図 4 参照]。

3. 薬剤数量の多い医科外来及び調剤での使用割合が低い

続いて診療種別でみますと、最も高いのは医科入院で 85.1%、最も低いのは歯科で 42.7%となっています。薬剤数量における構成割合でみますと、8 割以上を占める調剤の使用割合が▲1.8 ポイント、次に構成割合の大きい医科外来が▲3.0 ポイントの差となっており、東京支部の使用状況に大きな影響を与えています。[図 5 参照]。

4. 都心部の使用割合が低い

最後に地域別でみますと、都心部ほど使用割合が低い傾向にあります。区市町村別にみますと、奥多摩町の使用割合が最も高く 89.4%、最も低いのは新宿区で 62.4%となっています（令和元年 10 月診療分）[図 6 参照]。

ジェネリック医薬品使用割合向上に向けた協会けんぽの取組み

東京支部では使用割合 80%の目標達成に向け、加入者、医療従事者及び都内関係者に対して、次の取組みを実施いたします。

1. ジェネリック医薬品に変更した場合のお薬代の軽減可能額のお知らせを送付

協会けんぽでは、先発医薬品をジェネリック医薬品に切り替えた場合のお薬代軽減可能額を、加入者ご本人に対してお知らせをしています [図 7,図 8 参照]。

令和 2 年 2 月からお知らせの対象年齢を引き下げ、15 歳以上の加入者に拡大いたしました。これは、15 歳の年度末に乳幼児等医療費助成が終了する区市町村も多く、ジェネリック医薬品の切替えに繋がりと考え、対象年齢を拡大しました。

今年度もお知らせをする予定です。

2. 保険薬局及び医療機関にジェネリック医薬品使用状況に関する情報提供を実施

東京支部加入者のレセプトデータの分析から、保険薬局ごとに「ジェネリック医薬品の調剤割合」、「薬効分類別調剤割合」、「保険薬局におけるジェネリック医薬品向上に寄与する上位 10 医薬品」などを掲載した、自局の調剤状況が確認できるお知らせを作成し送りしています。令和 2 年 3 月には都内の全保険薬局にお知らせをお送りいたしました。

今後は、医療機関にも同様のお知らせをお送りするとともに、コロナウイルスへの対応状況に配慮のうえ、必要に応じて訪問による説明を行ってまいります [図 9 参照]。

3. ジェネリック医薬品処方実績リストのホームページへの掲載

東京支部の加入者のレセプトデータをもとに、医療機関及び保険薬局でジェネリック医薬品の採用を検討する際の参考となるよう、医薬品の処方実績をまとめた「ジェネリック医薬品処方実績リスト」を作成し、ホームページに掲載しています。

今後も定期的にリストの掲載内容を更新してまいります [図 10 参照]。

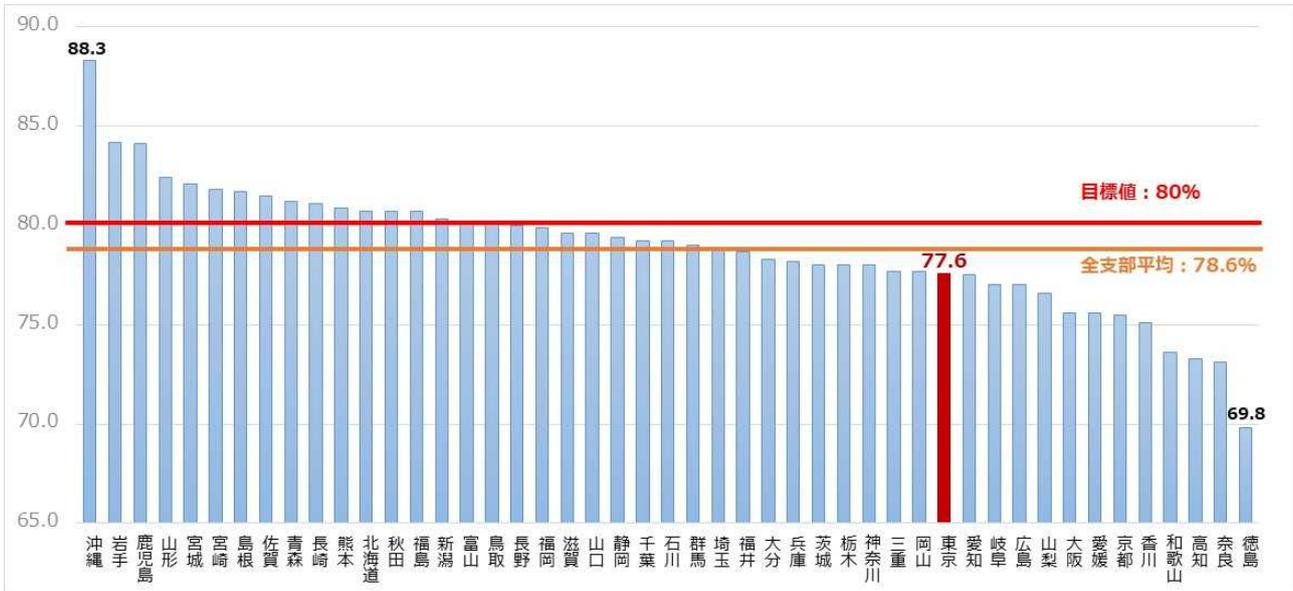
4. 都内関係者と連携した取組みの強化

都内の医療関係者、区市町村、医療保険者、都民代表及び学識経験者で構成される「東京都後発医薬品安心使用促進協議会」など、都内関係者が集まる会議において、データ分析から判明した課題の共有、取組み事例の紹介などを行い、東京支部だけではなく、関係機関も含めた「All Tokyo」でのジェネリック医薬品使用促進の取組みを推進してまいります。

《全国健康保険協会（協会けんぽ）について》

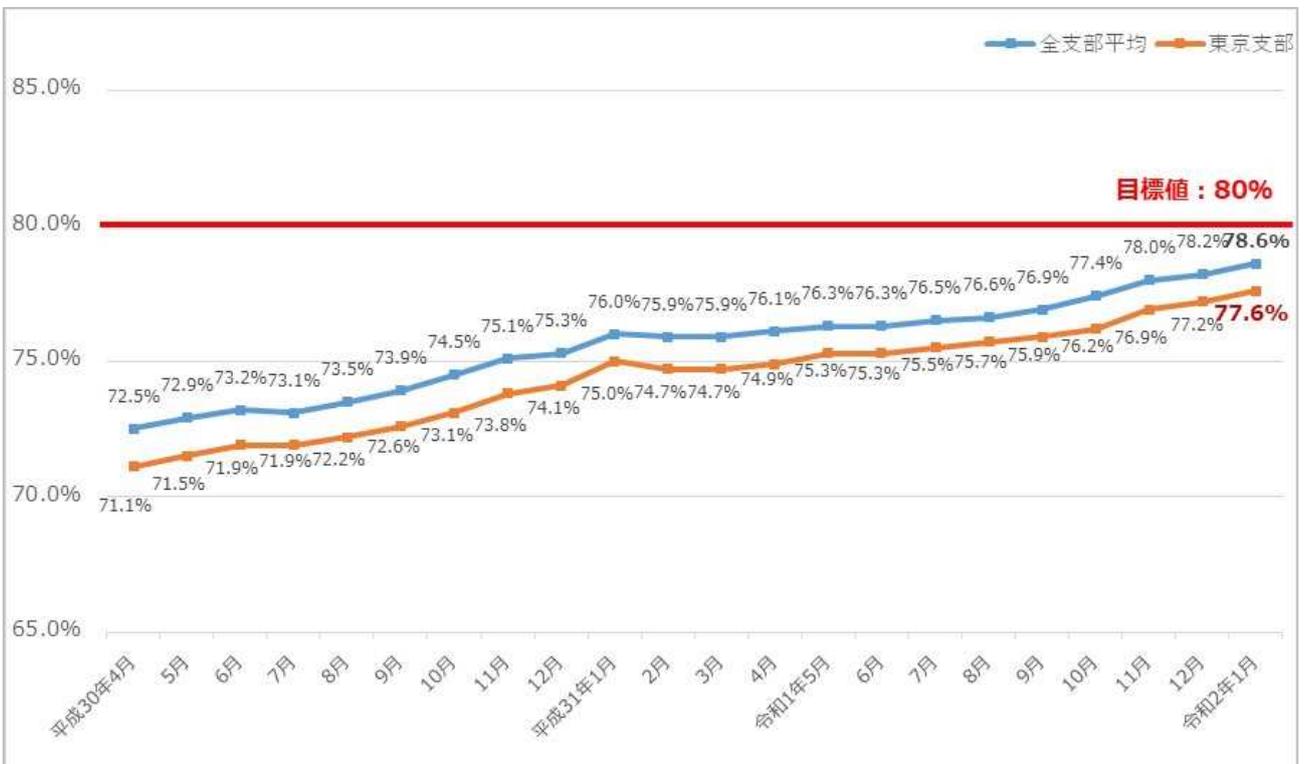
- ・協会けんぽは、約 232 万事業所、約 4,045 万人の加入者からなる日本最大の医療保険者です。
- ・47 都道府県にある支部のうち、東京支部は都内約 38 万事業所（協会けんぽ全体の約 16.4%）、約 550 万人（協会けんぽ全体の約 13.6%）の加入者からなる最大の支部です（令和 2 年 2 月時点）。
- ・主に、中小企業で働く従業員とそこご家族が加入されています。

【図1：都道府県支部別のジェネリック医薬品使用割合（令和2年1月診療分）】

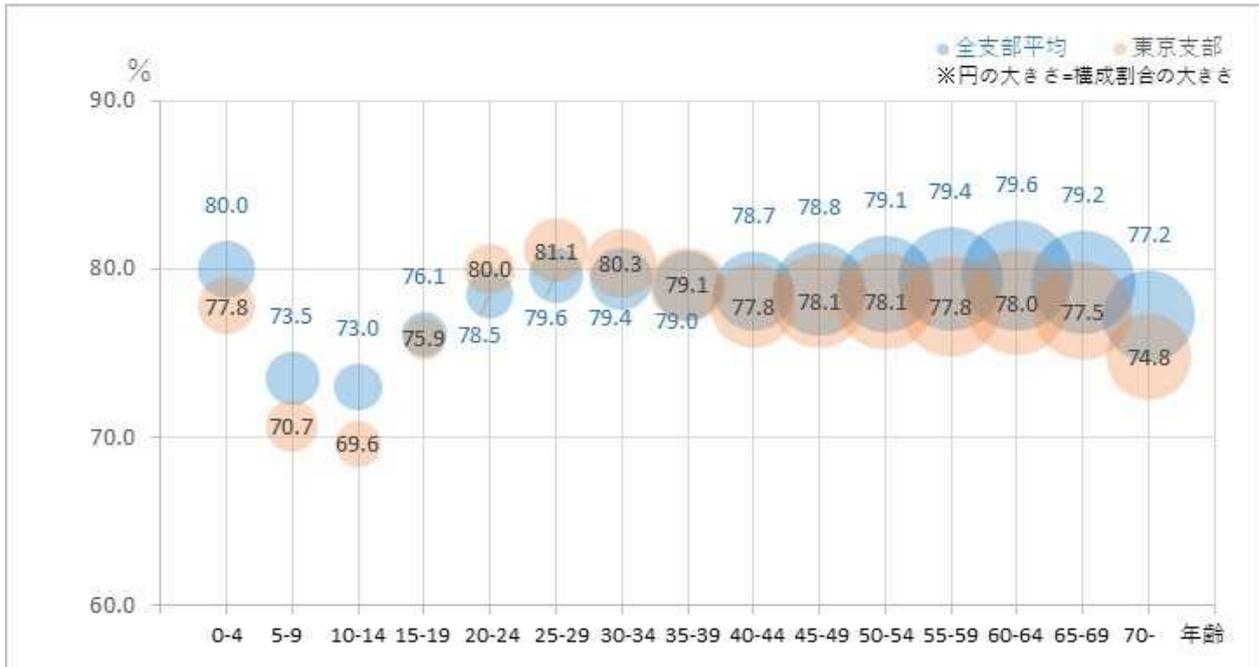


- ※1. 協会けんぽ（一般分）の医科、DPC、歯科、調剤の電子レセプトについて集計したもの（算定ベース）。
- ※2. 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量。
- ※3. 「使用割合」は、 $[\text{後発医薬品の数量}] \div ([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])$ で算出。
医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。

【図2：東京支部におけるジェネリック医薬品使用割合の推移】



[図 3 : 年齢階級別のジェネリック医薬品使用割合 (令和 2 年 1 月診療分)]



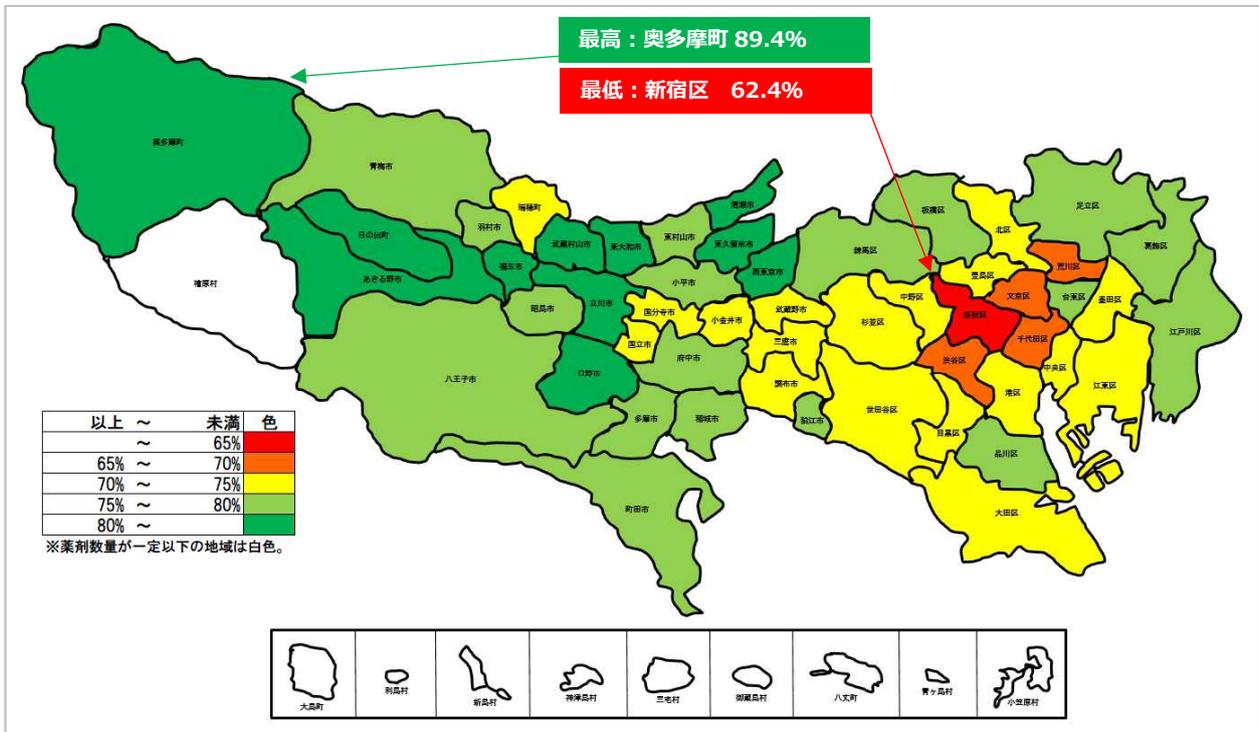
[図 4 : 薬効分類別のジェネリック医薬品使用割合 (令和 2 年 1 月診療分)]



[図 5 : 診療種別のジェネリック医薬品使用割合 (令和 2 年 1 月診療分)]



[図 6 : 東京都内区市町村別のジェネリック医薬品使用割合 (令和元年 10 月診療分)]



※1 : 区市町村別の使用割合の集計は、都内医療機関及び薬局の所在地に基づく。

※2 : 協会けんぽ東京支部の医科、DPC 及び調剤レセプトを対象とする。

[図7: ジェネリック医薬品軽減額通知 (令和2年2月通知分)]

ジェネリック医薬品を使ってみませんか?

あなたに処方されたお薬をジェネリック医薬品に変更した際の軽減額を裏面に記載しています。

〈裏面のお知らせの見方〉

見本

ジェネリック医薬品をお使いいただくと
あなたのお薬代を減らすことができます

1 平成31年 4月 に処方されたお薬のうち、
以下の医薬品をジェネリック医薬品に変更した場合

2 お薬代の軽減可能額 **5,350円**

平成31年 4月 診療分で処方されたお薬(先発医薬品)		お薬代 (3割負担)	ジェネリック医薬品に 変更することで 軽減できるお薬代
薬名	〇〇〇〇錠10 10mg	5,690	2,710
	〇〇〇〇〇点眼液(0.1%)	1,850	1,130
	〇〇〇〇テープ100mg	870	260
処方機関	〇〇〇〇テープ40mg	2,490	820
	〇〇〇〇テープ20mg 7cmX 10cm	1,230	430
4 合計		12,130	2 5,350

5 この「お知らせ」は、ジェネリック医薬品への変更をご検討いただく際の参考としてお送りしているものであり、必ずしもジェネリック医薬品に切り替えなければならぬものではありません。

【注意事項】 ※ぜひ読みください。

- 処方されたお薬によっては複数のジェネリック医薬品が存在するため、この「お知らせ」に記載している金額と異なる場合があります。この「お知らせ」に記載された金額は目安としてご利用ください。
- 軽減額はお薬代のみを対象としています。実際に医療機関や薬局へお支払になる金額には、お薬代以外の診察や検査等に要する費用が含まれています。
- この「お知らせ」は医療機関-薬局からの請求データに基づいて作成しています。軽減できる金額の大きいお薬から順に表示しています。多くのお薬を処方されている場合、記載しきれないこともあります。
- ジェネリック医薬品に変更する前には薬剤師様とご相談の上、処方せんが必要となります。
- かかっている病院によっては、ジェネリック医薬品に変更できない場合があります。また、全ての先発医薬品にジェネリック医薬品があるわけではありません。

1 処方年月
この月に処方されたお薬で、軽減可能額の試算を行っています。

2 お薬代の軽減可能額
ジェネリック医薬品に変更することで軽減できる1か月のお薬代の目安です。
※お薬代以外の診察等に要する費用は含まれていません。

3 お薬名
軽減できるお薬代が高いものを最大で8種類記載しています。

4 お薬代
ジェネリック医薬品に変更する前の1か月のお薬代です。
※お薬代のみを記載していますので、お支払いになった金額とは異なります。

5 注意事項

Q. 具体的なジェネリック医薬品の名前が書いていないのはなぜ?
A. 1つの先発医薬品に対し、複数のジェネリック医薬品が存在する場合があるため、この「お知らせ」には具体的なジェネリック医薬品名を記載していません。具体的なお薬については、かかりつけの医療機関または薬局でご相談ください。

全国健康保険協会
協会けんぽ

【図8：ジェネリック医薬品軽減額通知実績一覧】

ジェネリック医薬品軽減額通知サービスの軽減効果額等一覧						
年度	通知対象条件	コスト	通知件数	軽減効果 人数 (割合率)	軽減額/月	軽減額/年(※1)
21年度	<ul style="list-style-type: none"> 40歳以上の加入者 軽減効果額200円以上 	約7.5億円	約145万件	約38万人 (26.2%)	約5.8億円	約69.6億円
22年度	<ul style="list-style-type: none"> 35歳以上の加入者 軽減効果額300円以上 21年度通知者は対象外 	約4.7億円	約55万件	約11万人 (21.5%)	約1.4億円	約16.8億円
23年度	<ul style="list-style-type: none"> 35歳以上の加入者 軽減効果額300円以上 22年度通知者は対象外 	約5.0億円	【1回目】 約84万件	約20万人 (23.3%)	約2.5億円	約30.0億円
			【2回目】 約21万件	約5万人 (25.4%)	約0.8億円	約9.3億円
24年度	<ul style="list-style-type: none"> 35歳以上の加入者 軽減効果額は医科400円以上、調剤200円(2回目は400円)以上 23年度通知者は対象外 	約4.8億円	【1回目】 約96万件	約24万人 (25.1%)	約3.1億円	約37.2億円
			【2回目】 約27万件	約7万人 (24.9%)	約0.9億円	約10.8億円
25年度	<ul style="list-style-type: none"> 35歳以上の加入者 軽減効果額は医科400円以上、調剤250円(2回目は400円)以上 	約2.4億円	【1回目】 約134万件	約32万人 (24.0%)	約4.4億円	約52.8億円
			【2回目】 約50万件	約15万人 (29.0%)	約2.5億円	約30.3億円
26年度	<ul style="list-style-type: none"> 35歳以上の加入者 軽減効果額は医科600円以上、調剤150円以上 	約3.9億円	【1回目】 約166万件	約46万人 (28.0%)	約7.0億円	約84.3億円
			【2回目】 約163万件	約42万人 (25.7%)	約6.1億円	約73.4億円
27年度	<ul style="list-style-type: none"> 35歳以上の加入者 軽減効果額は医科600円以上、調剤100円以上 	約4.0億円	【1回目】 約181万件	約51万人 (28.1%)	約7.3億円	約87.2億円
			【2回目】 約194万件	約56万人 (29.0%)	約8.4億円	約101.3億円
28年度	<ul style="list-style-type: none"> 20歳以上の加入者 軽減効果額は医科600円以上、調剤100円(2回目は50円)以上 対象診療月を従来の1ヶ月分から2ヶ月分に拡大 	約6.2億円	【1回目】 約307万件	約78万人 (25.3%)	約11.3億円	約136.0億円
			【2回目】 約303万件	約76万人 (25.3%)	約11.2億円	約134.1億円
29年度	<ul style="list-style-type: none"> 20歳以上の加入者 軽減効果額は医科600円以上、調剤50円以上 対象診療月は2ヶ月分 	約7.7億円	【1回目】 約358万件	約98万人 (27.4%)	約15.6億円	約187.0億円
			【2回目】 約346万件	約117万人 (33.8%)	約20.7億円	約248.7億円
30年度	<ul style="list-style-type: none"> 20歳以上の加入者 軽減効果額は医科600円以上、調剤50円以上 対象診療月は3ヶ月分 	約7.0億円	【1回目】 約371万件	約101万人 (27.2%)	約14.6億円	約175.2億円
			【2回目】 約298万件	約85万人 (28.5%)	約12.9億円	約154.8億円
合計		約53.2億円	約3,298万件	約902万人 (27.3%)	約136.5億円	約1,638.6億円

※1 軽減額(月)×12ヶ月(単純推計)

[図9：ジェネリック医薬品に関するお知らせ（薬局版）]

No.2019-1-00001

6. 貴薬局における後発品数量割合向上に寄与する上位10医薬品

後発品数量割合向上に寄与する上位10医薬品をお知らせします。
国目標80%に達していない医薬品は、特に後発品の使用促進にご協力をお願いします。

品名	数量	後発品数量割合 (%)	国目標 (%)
アロプリジン塩酸塩	624	0.0%	80%
トルファン塩酸塩	180	66.7%	80%
フルニソドン錠	178	0.0%	80%
シメチジン錠	174	0.0%	80%
ロシタリジン塩酸塩	140	0.0%	80%
シメチジン錠	130	0.0%	80%
アロプリジン塩酸塩	120	0.0%	80%
フルニソドン錠	120	0.0%	80%
アロプリジン塩酸塩	112	53.4%	80%
フルニソドン錠	105	65.6%	80%
フルニソドン錠	105	72.2%	80%

※後発品のある先発品を数量の多い順に最大10品目掲載しています。
後発品数量の算出は薬価コード別で行う後発品がある場合に表記しており、効果効果・用法用量の違いは考慮していません。

1. 協会けんぽ加入者への調剤状況

「貴薬局」「二次医療圏」「都平均」の後発品にかかる調剤状況をお知らせします。

協会けんぽ薬局1		貴薬局	二次医療圏平均	都平均
人数	172人	183人	152人	
後発品を調剤した加入者数	115人	125人	113人	
後発品を調剤した加入者割合	66.9%	68.2%	73.8%	
貴薬局の調剤数量	19,908	29,655	24,440	
後発品のある先発品調剤数量	4,526	5,426	4,081	
後発品の調剤数量	8,656	13,634	12,078	
後発品数量割合	65.7%	71.5%	74.7%	
貴薬局にて調剤した医薬品の薬剤金額	847,949円	1,813,697円	1,263,280円	
後発品の薬剤金額 (10品)	184,494円	289,505円	235,613円	
後発品金額割合 (10品)	21.8%	16.0%	18.7%	

※本誌に掲載している情報は、協会けんぽ 平成31年4月診療分の調剤レシートをもとにて作成しています。

2. 後発品数量割合と一般名処方含まれるレセプト割合による貴薬局の位置づけ

「後発品数量割合（縦軸）」と「一般名処方含まれるレセプト割合（横軸）」をもとに、貴薬局の位置づけをお知らせします。地域の後発品使用状況を参考にしたい方とご一緒に、さらなる後発品の使用促進にご協力をお願いします。

3. 後発品数量割合と処方せん集申率の集中状況による貴薬局の位置づけ

「後発品数量割合（縦軸）」と「処方せん集申率（横軸）」をもとに、貴薬局の位置づけをお知らせします。地域の後発品使用状況を参考にしたい方とご一緒に、さらなる後発品の使用促進にご協力をお願いします。

※処方せん集申率は、主たる医療機関（処方せん発行数が最大の医療機関）からのレセプトが占める割合

4. 貴薬局の薬効分類別後発品数量割合

貴薬局における「後発品先発品」の数量が多い薬効分類上位10種をお知らせします。
国目標80%に達していない薬効は、特に後発品の使用促進にご協力をお願いします。

薬効分類	数量	後発品数量割合 (%)	国目標 (%)
中枢神経系薬	963	7.3%	80%
中枢神経系薬	772	68.1%	80%
中枢神経系薬	636	62.5%	80%
中枢神経系薬	626	4.4%	80%
中枢神経系薬	508	77.5%	80%
アレルギー薬	353	80.9%	80%
消化器薬	186	74.7%	80%
内分泌・代謝薬	182	67.1%	80%
呼吸器薬	148	70.8%	80%
泌尿器薬	90	55.9%	80%
その他	50.2%	66.2%	80%
その他	58.5%	77.8%	80%
その他	68.0%	67.3%	80%
その他	83.9%	72.5%	80%
その他	75.6%	78.1%	80%
その他	70.9%	82.2%	80%
その他	79.3%	79.3%	80%

5. 貴薬局の年齢別後発品数量割合

貴薬局における年齢別後発品数量割合をお知らせします。
国目標80%に達していない年齢については、特に後発品の使用促進にご協力をお願いします。

年齢	後発品数量	後発品数量割合 (%)	国目標 (%)
0～9歳	4	100.0%	80%
10～19歳	-	-	80%
20～29歳	196	79.6%	80%
30～39歳	1,194	67.3%	80%
40～49歳	2,346	85.2%	80%
50～59歳	3,929	59.3%	80%
60～69歳	3,607	63.2%	80%
70歳以上	1,906	57.0%	80%

※円の大きさは「後発品数量+後発品数量」

[図 10 : ジェネリック医薬品処方実績リスト]

五十音	No.	医薬品名	メーカー名	薬価基準収載 医薬品コード	薬効分類 コード	一般名処方 標準的な記載	薬価	数量	医療 機関数	薬局数	患者数	患者 割合
ア	1	先発	アーチスト錠 1.0mg	---	2149032F1021	【般】カルベジロール錠 1.0mg	48.3	35,073	77	323	692	16%
		後発	カルベジロール錠 1.0mg 「サワイ」	沢井製薬	2149032F1099		19.3	123,757	79	598	2,059	84%
			カルベジロール錠 1.0mg 「トーワ」	東和薬品	2149032F1129		19.3	30,815	38	172	583	
		その他				~19.3	50,823	42	268	896		
	2	先発	アーチスト錠 2.5mg	---	2149032F4020	【般】カルベジロール錠 2.5mg	22.0	33,404	55	201	379	17%
		後発	カルベジロール錠 2.5mg 「サワイ」	沢井製薬	2149032F4039		9.9	126,723	60	515	1,408	83%
			カルベジロール錠 2.5mg 「トーワ」	東和薬品	2149032F4098		9.9	23,685	12	85	275	
		その他				~9.9	14,426	---	55	144		
	3	先発	アイミクス配合錠HD	大日本住友製薬	2149118F2026	【般】イルベサルタン・アムロジピン 1.0mg 配合錠	132.8	31,592	56	258	693	24%
		後発	イルアミクス配合錠HD 「D S P B」	D S ファーマプロモ	2149118F2034		53.1	59,925	21	321	1,269	76%
			イルアミクス配合錠HD 「杏林」	キョーリンリメディオ	2149118F2093		53.1	10,005	---	80	212	
		その他				~53.1	34,905	22	244	744		
	4	先発	アイミクス配合錠LD	大日本住友製薬	2149118F1020	【般】イルベサルタン・アムロジピン 5mg 配合錠	115.8	22,170	40	189	495	27%
		後発	イルアミクス配合錠LD 「D S P B」	D S ファーマプロモ	2149118F1038		46.3	36,589	12	265	766	73%
			イルアミクス配合錠LD 「杏林」	キョーリンリメディオ	2149118F1097		46.3	6,666	---	55	150	
		その他				~46.3	5,555	10	169	431		
SAMPLE												
ラ	1361	後発	リシノプリル錠 1.0mg 「トーワ」	---	2144006F2118	【般】リシノプリル錠 1.0mg	11.0	3,767	---	33	62	86%
			リシノプリル錠 1.0mg 「白壁工」	白壁工	2144006F2150		11.0	2,420	---	32	47	
			リシノプリル錠 1.0mg 「タイヨー」	武田テバファーマ	2144006F2134		17.5	2,355	---	29	46	
			リシノプリル錠 1.0mg 「サワイ」	沢井製薬	2144006F2169		~17.5	385	---	---	---	
ワ	1362	先発	ワソラン錠 4.0mg	マイラン E P D	2171008F1070	【般】ペラバミル塩酸塩錠 4.0mg	7.1	68,207	114	295	656	43%
		後発	ペラバミル塩酸塩錠 4.0mg 「タイヨー」	武田テバファーマ	2171008F1088		6.3	64,184	23	306	595	57%
			ペラバミル塩酸塩錠 4.0mg 「J G」	大塚製薬	2171008F1118		6.3	19,676	13	98	158	
	ペラバミル塩酸塩錠 4.0mg 「ツリハラ」	精原製薬	2171008F1126	6.3	14,372	11	48	132				
他	1363	先発	P L 配合顆粒	塩野義	1180107D1131	【般】プロメタジン 1.35% 等配合 非ビリン系感痛剤	6.4	76,758	314	821	3,454	52%
		後発	トーフチーム配合顆粒	東和薬品	1180107D1123		6.2	44,513	38	441	2,185	48%
			サラザック配合顆粒	武田テバファーマ	1180107D1107		6.2	10,086	---	89	479	
	その他				~6.2	12,321	24	112	577			
他	1364	先発	2mg セルシン錠	武田薬品	1124017F2135	【般】ジアゼパム錠 2mg	5.9	21,267	48	177	354	24%
		後発	ジアゼパム錠 2mg 「アメル」	共和薬工	1124017F2194		5.6	33,627	35	165	531	76%
			ジアゼパム錠 2mg 「トーワ」	東和薬品	1124017F2054		5.6	27,292	25	147	398	
	その他				~5.6	12,314	11	78	174			